

名前を呼ぶよ。



August - September 2026

こんな本



読んでみて

No.120

津市立三重短期大学附属図書館 

目次

名前を呼ぶよ。	1
MIETAN 本つなぎ 第16回	6
Book design の世界 vol.50	10
ちょこちょこ日記 # 60	12

名前を呼ぶよ。 — 名前が誘う、物語の入り口 —

本から呼びかけられているようで、思わず手に取ってしまう。
表紙を開くと、自分がその名前を呼んでいるような気持ちになる。

今回は、タイトルに登場人物の名前が入った作品を特集します。
愛すべきキャラクターたちの物語を、
ぜひあなたの手で開いてみてください。



な る せ

『成瀬は天下を取りに行く』

著 者／宮島未奈

出 版 社／新潮社

出 版 年／2023年

請求記号／913.6||Mi 75

中学2年生の成瀬あかりは、ローカル番組の中継に映るため、閉店間近のデパート西武大津店に毎日通い詰める。さらには、幼なじみの島崎みゆきと共にM-1グランプリに挑戦！我が道を突き進む成瀬から目が離せません。2024年本屋大賞受賞作。続編『成瀬は信じた道をいく』完結編『成瀬は都を駆け抜ける』も所蔵しています。

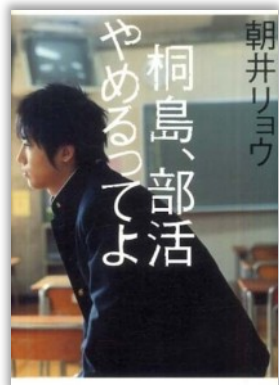


も も せ

『百瀬、 こっちを向いて。』

著 者／中田永一
出 版 社／祥伝社
出 版 年／2008年
請求記号／913.6||N 23

宮崎先輩に頼まれて、野良猫のような目つきの美少女・百瀬と付き合っている演技をすることになったノボル。それぞれが切ない秘密を抱えて過ごす日々の中で、嘘から始まった関係の行方は―。恋の痛みと輝きを描いたみずみずしい恋愛小説集。



き り し ま

『桐島、 部活やめるってよ』

著 者／朝井リョウ
出 版 社／集英社
出 版 年／2010年
請求記号／913.6||A 83

バレー部のキャプテン・桐島の突然の退部によって、5人の高校生達の日常に静かな波紋が広がっていく―。教室内にある見えない格差や葛藤、青春の苦さときらめきをリアルに描いた作品です。第22回小説すばる新人賞受賞作。



し ら の ま す み

『白野真澄は しょうがない』

著 者／奥田亜希子
出 版 社／東京創元社
出 版 年／2020年
請求記号／913.6||O 54

本書に登場するのは、助産師、イラストレーター、主婦、大学生、小学4年生の「白野真澄」。年齢も環境もバラバラで、同じ名前を持つ5人それぞれが、違う悩みを抱えて過ごす日常を描いた短編集です。どこか愛おしい5つの物語。



お き は る

『沖晴くんの 涙を殺して』

著 者／額賀滯
出 版 社／双葉社
出 版 年／2020年
請求記号／913.6||N 99

震災によって「喜び」以外の感情をなくした高校生・沖晴が、余命わずかの音楽教師・京香と出会い、少しずつ「心」を取り戻していく―。感情があることの大切さを実感させてくれる、切なくも優しい感動の青春物語。



は ま じ け ん ざ ぶ ろ う

『濱地健三郎の 霊なる事件簿』

著 者／有栖川有栖
出 版 社／KADOKAWA
出 版 年／2017年
請求記号／913.6||A 76

鋭い推理力と幽霊を視る能力を持つ、心霊探偵・濱地健三郎。濱地は助手の志摩ユリエと共に、奇妙な現象の謎に迫ります。事件の裏にある人間ドラマと幽霊への優しい眼差しが胸を打つ、ミステリーと怪談の面白さを同時に味わえる連作短編集です。



む ぎ も と さ ん ぽ

『麦本三步の 好きなもの』

著 者／住野よる
出 版 社／幻冬舎
出 版 年／2019年
請求記号／913.6||Su 63

好きなものがたくさんあるから、毎日はきっと楽しい。大学図書館で働く麦本三步は、大好きなものにいつも全力。ささやかな幸せを描いた心温まる日常小説です。続編の第2集・第3集も所蔵しています。



『フーガはユーガ』

著 者／伊坂幸太郎
出 版 社／実業之日本社
出 版 年／2018年
請求記号／913.6||I 68

ときわ ゆう が

常盤優我は仙台市内のファミレスで一人の男に語り出す。双子の弟・風我のこと、幸せでなかった子供時代のこと、そして、彼ら兄弟だけの不思議な現象「アレ」のこと。双子の兄弟が織りなす、「闘いと再生」の物語。



『クロエとオオエ』

著 者／有川ひろ
出 版 社／講談社
出 版 年／2025年
請求記号／913.6||A 71

お お え よ り と う

く ろ え

老舗宝石商の嫡男・大江頼任と、彫金職人の娘・黒江彩。頼任の店のブライダルジュエリーのオーダーをきっかけに、仕事を通して二人の距離は少しずつ縮まっています。きらびやかなジュエリーの世界を舞台にした、心ときめくお仕事ラブコメです。

三重短生の
おすすめ本をリレーして
三重短を
本でつなげたい！

第 16 回

ももさん

生活福祉・心理
コース
1年

すすめさん

居住環境
コース
1年

ー今日はよろしくお願いします。まずは、ももさんからおすすめの本を教えてください。

かくりよ

ももさん 1冊目は『**幽世の薬剤師**』です。漢方専門の薬剤師である主人公が、「幽世」という異世界に連れ去られて、その世界の謎を漢方の力を使って解き明かしていく話です。ミステリーが主な話にはなるんですけど、ただ謎を解決するだけじゃなくて、登場人物たちの関係性や、和風でちょっと変わった世界観も面白いんです。中でも一番面白いのが、クライマックスです。最後にすべての謎が解決する時、今までの出来事が一気につながって、「あれとこれがつながっていたんだ！」っていう発見と驚きがありました。

ーそんな風にきれいに繋がっていくと、1冊読み通した時の満足感がすごそうですね。



ももさん そうなんです。その一番盛り上がるところが本当に感動するんです。登場人物にも共感できる人が多くて、読み終わった後にも余韻が残る、心が温まるような話が多いんです。なので、普段あまりミステリーを読まない人でも読みやすい作品なんじゃないかなと思います。



ー素敵ですね。とても気になります。それでは2冊目の本をご紹介します。

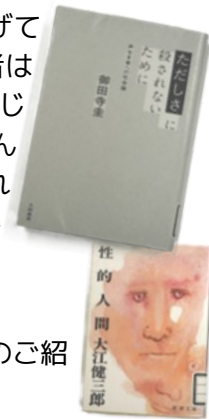
ももさん 『**メンタル強め美女白川さん**』という本です。この本は、主人公の白川さんが、職場の周りの人の悩み事を、明るくポジティブに解決していく話です。自分の悩みに近いエピソードがあると、「こういう考え方もあるんだな」という発見があって面白いです。一話完結の漫画なので、そんなに長い時間を取らなくても、気軽に読めます。この本自体が、名言集みたいな感じにもなっていて、白川さんがたくさんいいことを言ってくれます。気分が落ち込んだ時でも、ちょっと読むだけで明るい気分になって、元気をもらえる作品です。

ー続いて、すすめさんのおすすめ本のご紹介をお願いします。

すすめさん 私は3冊紹介します。1冊目は、御田寺圭さんの『**ただしさに殺されないために**』です。私は、普段からニュースを見て、「私だったらどうなんだろう」「どうしたらこの問題は解決できるんだろう」というのをあれこれ考えるのが好きなんです。この本では、「どんな見た目や思想を持っていたとしても多様性が認められる世界のはずなのに、なぜ今ルッキズムは進んでしまっているのか」など、今まさに世界で起こっている問題を取り上げています。著者は自分なりの見解を示しているのですが、著者は自分の意見が絶対だと思ってほしいわけではないだろうと感じました。これを読んで、私には私の結論が出るし、ももちゃんが読んだらももちゃんの答えが出る。そんな風に、読む人それぞれに違った意見が生まれる本だと思います。なので、みんな読んで「どう思った？」って意見を共有するまでがセットで面白い本かなと思っています。

ーみんなで語り合いたくなるような一冊なんですね。2冊目のご紹介をお願いします。

すすめさん 2冊目は大江健三郎さんの『**性的人間**』です。少し前の作品ということもあって、時代的なギャップを感じたり、わからないところを調べながら読み進めることもありました。描かれているのは、混沌とした、発達していく世界です。作中には、昔の人に裏切られた人とか、自分がこういう人間だっていうのを認められなくて、傷ついて心を閉ざしてしまってる人とか、色々な葛藤を抱えた人間が登場します。そんな、それぞれの登場人物が最終的にどういう選択をしていくのかという小説です。



すずめさん 3冊目は湯本香樹実さんの『**岸辺の旅**』です。これは高校の時、司書の先生に「最後にモヤッと残るような、ほの暗い小説はありませんか？」と聞いて薦めてもらった、思い入れのある一冊です。ある日、妻の瑞希が白玉団子を作っていると、3年前に失踪して死んだはずの夫・優介がふっと後ろに現れます。この小説の幽霊は、ご飯も食べるし、髭も伸びるし、体温もある。人間に近い幽霊なんです。そこから、二人で旅に出ます。それは、夫にとっては妻をこの世に置いていってしまった後悔を許してもらうための懺悔の旅であり、妻にとっては夫の死を少しずつ受け入れていく旅でもあります。旅の中でいろんな人と出会ううちに、優介の本当の思いがだんだん見えて



きます。結末は言えないんですけど...本当に感動します。決して「ハッピーエンドでよかった」という結末ではないけれど、すごく納得がいて深く考えさせられる本です。

ーその時々にはできない、特別な読書体験ってありますよね。お二人とも、素敵な本のご紹介をありがとうございます。

本つなぎ

3つの質問

ー3つの質問のコーナーです。①今、はまっているものを教えてください。

すずめさん 温泉と山登り、それから刀です。温泉と山登りはセットではまっています。高校の時に山登りをする部活に入っていました。早朝から夕方まで1日かけて山を登って、汗だくだくになって降りてきた後に入る温泉が最高なんです。山登りは、天気図を書いたり、体作りをしたり、食事の栄養バランスを勉強したり、いろんな楽しみ方があるので好きになりました。そして、刀は本当に最近です。ついこの間、刀の本を借りて、歴史を勉強したら楽しかったのではまりました。

ももさん 私は日本舞踊にはまっています。高校1年の冬ごろに始めました。もともと和風のものが好きだったんです。中学校までは部活が忙しかったんですけど、高校では部活に行くのがちょっと少なくなったので、何か新しいことを始めたいと思って、色々探して、日本舞踊ができれば楽しそうだなと思って習い始めました。週に1回通っていて、今は扇子を使う踊りをしています。年に2～3回ぐらい発表会があるので、たまに出させてもらっています。



ー②好きな音楽はなんですか？ 前回登場のいちさんからの質問です。

すずめさん MISIAさんの「名前のない空を見上げて」です。すごく真っ直ぐな思いが伝わってくる曲で、カラオケに行ったら絶対に歌います！母からの影響でMISIAさんが本当に好きです。それから、10年以上ピアノをやっているので、クラシックも好きですし、他にもロックやラップ、バラードなどジャンルを問わず何でも聴きます。

ももさん 私はTOMOOさんの「あわいに」という曲が好きです。ドラマ『ソロ活女子のススめ』の主題歌になっていて、いい曲だなと思って今も聴いています。ぜひ聞いてみてください！

ー③どういう人が尊敬できますか？ やまさんからの質問です。

すずめさん 少し抽象的な表現になってしまうのですが、「物事や人に対して誠実に真剣に向き合える人」です。これは私自身が目指している理想の姿でもあります。そしてもう一つが、「よく人の様子を見て助けてくれる人」です。素敵な行動ができる人を見ていて、自分もあんな風にできたらいいなと思っています。

ももさん 私は「行動力がある人」です。私自身、行動するまでに結構時間がかかってしまって、すぐに行動することができないので、思い立ったら行動に移せる人に憧れます。

ー今日は素敵なお話をありがとうございました。

今回の本つなぎ

●ももさん●

『幽世の薬剤師』

紺野天龍著／新潮社／2022年

『メンタル強め美女白川さん』

獅子著／KADOKAWA／2020年

●すずめさん●

『ただしさに殺されないために』

御田寺圭著／大和書房／2022年

『性的人間』大江健三郎著／新潮社／1989年

『岸辺の旅』湯本香樹実著／文藝春秋／2010年

16



次の2人へ
本つなぎ。
次回もお楽しみに♪

Book design

の世界

vol.50

石川 絢土さん

(the GARDEN)

本を選ぶ時、表紙や本のデザインに惹かれて選ぶことがあります。本を開くとそこに書いてある
そう
「装幀」という言葉と名前。

本のデザインをする方を装幀家やブックデザイナーと言います。この連載では本のデザインや装丁から、本を楽しみたいと思います。

いしかわけんじ
第50回目は、石川絢土さんです。

愛知県安城市生まれの石川絢土さんは、レコード会社勤務を経て、1992年にデザインスタジオ「the GARDEN」を設立しました。CDジャケットを中心とした音楽関係のアートワークを手がける一方、2000年からは書籍の装幀家としても活躍しています。作家・坂木司さんのデビュー以来、全ての単著の装幀を手がけています。



装幀：石川絢土
[the GARDEN]
石川早希
[sunrise garden]
撮影：落合健人
[sunrise garden]

最初にご紹介する『アンと幸福』(坂木司著／光文社／2023年／913.6||Sa 31) は、デパ地下の和菓子店で働く梅本杏子(通称アンちゃん)の日常を描いたお仕事ミステリー「和菓子のアン」シリーズの第4作です。表紙一面を埋め尽くす「みかん大福」の鮮やかなデザインが目飛び込んできます。作品の持つ温かく明るい雰囲気が表現されており、一步ずつ成長していくアンちゃんの姿が重なるような装幀です。

続いてご紹介する『うまいダッツ』(坂木司著／文藝春秋／2024年／913.6||Sa 31) は、高校の「おかし部」のメンバーたちが身の回りの謎にゆるく挑んでいく物語です。プレッツェルで表現された「UMAI-DAZS」のタイトル文字がキャッチーで、おかし部のゆるやかで楽しい空気感が伝わってくる装幀です。



装幀：石川絢土[the GARDEN]
石川早希[sunrise garden]
落合健人[sunrise garden]



装幀：石川絢土
[the GARDEN]

『鶏小説集』(坂木司著／KADOKAWA／2017年／913.6||Sa 31) は、その名の通り「鶏肉」をテーマにした短編小説集です。カバーに描かれた鶏のイラストには、ササミやモモ肉といった部位の名前とともに、作品で取り上げられる順番を示す1から5の番号が振られています。本のどこかにはヒヨコの姿も。ぜひ手に取って探してみてください。鶏肉という身近な食材をコンセプトにした、視点の面白さが一目で伝わるデザインです。

『シンデレラ・ティース』(坂木司著／光文社／2009年／913.6||Sa 31) は、夏休みの間、大っ嫌いな歯医者で受付のアルバイトすることになった大学2年生のサキの物語。歯ブラシを持ったハムスターが描かれたコミカルな印象のカバーデザインです。歯磨きのチューブに描かれたマークに注目してください。これはレッド＆ホワイトリボンで、口腔ガンの撲滅や早期発見、検診受診促進の啓発を目的としたシンボルマークです。可愛いデザインの中にメッセージが込められています。



カバーデザイン：石川絢土



カバーデザイン：石川絢土
[the GARDEN]

今回最後の一冊『ホテルジュシー』(坂木司著／角川書店／2010年／913.6||Sa 31) は、那覇のゲストハウスへアルバイトにやってきた大学生・ヒロちゃんの物語です。実はこの作品、先ほどの『シンデレラ・ティース』とつながりがあります。著者の坂木司さんは、あとがきでこのように語っています。「装幀の石川絢土さんには、まともや姉妹作『シンデレラ・ティース』と対応した可愛いデザインをしていただきました。文庫版も、ぜひ二冊並べてみてください。生き物も対応しているのがわかりますよ」単行本から文庫化される際にもこだわりが引き継がれ、二つの作品が対になるような世界観が表現されています。

石川絢土さんの装幀には、本を開く前からワクワクするような遊び心があふれています。

Book design の世界 次回もお楽しみに！

参考：●the GARDEN ホームページ <https://garden-kenji.jimdofree.com/>

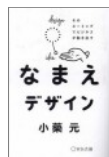
ちょこちょこ日記 #60 「名前の秘密」

今号は「名前を呼ぶよ。」をテーマに、登場人物の名前がタイトルに入っている作品を集めました。魅力的な名前はインパクトがありますよね。こちらのコーナーでは、特集に関連して、心惹かれる名前の秘密がわかる本をご紹介します。

●『なまえデザイン』

小薬元著／宣伝会議／2023年／674.35||Ko 26

「世界は名前で出来ている。」商品名やブランド名など、数々のヒット作の名前を手がけてきた人気コピーライターが、とっておきのネーミングの秘訣を伝える一冊です。



●『「かわいい」言語学 音とイメージから解明するネーミングのしくみ』

熊谷学而著／大修館書店／2025年／801.1||Ku 33

私たちはなぜ、特定のキャラクターや商品の名前を「かわいい」と感じるのでしょうか。言語学の視点から「かわいい」の秘密を解き明かします。



●『なぜ、おかしの名前はパピプペポが多いのか？』

川原繁人著／ディスカヴァー・トゥエンティワン／2023年／801.1||Ka 92

「よくおかしの商品名に『パ』とか『ピ』が付けられているけどなんで？」「ものの名前ってどうやって決めたんですか？」小学生からの素朴な質問に言語学者が本気で回答。言語学の面白さに触れられる一冊です。



様々な角度から名前の奥深さを感じられる3冊です。ぜひ図書館で手に取ってみてくださいね。

次号 No.121は、2026年10月発行予定です。

こんな本読んでみて No.120

2026年8月1日 発行

編集・発行 津市立三重短期大学附属図書館

〒514-0112 三重県津市一身田中野157

<http://www2.library.tsu-cc.ac.jp/>